

## 学習内容報告書 フォーマット

学校名	竹富町立古見小学校
授業者	新城 直人

### 1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

#### 1-1. 単元名

自分たちにできること（ゴミ0運動）

#### 1-2. 学年

全学年（1・3・4・5・6年）

#### 1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

結ぬ海科(海洋教育)

#### 1-4. 単元の概要

- (1) 【事前】漂着ゴミなどについて
  - ①生活から出る廃棄物や漂着ゴミについて
  - ②廃プラ輸出について
- (2) 「ゴミ0運動」の実践
  - ①漂着ゴミを拾う
  - ②拾ったゴミを分別し、量を調べる
- (3) 【事後】拾った漂着ゴミについて
  - ①漂着ゴミの現状について
  - ②マイクロプラスチックについて（劣化パネルの制作）
- (4) 自分達にできることを考えよう
  - ①西表島の海の現状を知ろう（サンゴ礁の現状について）
  - ②プラスチックの一生マップを作成
  - ③町長への提言書を作成し、町長へ渡そう

#### 1-5. 単元設定の理由・ねらい

本校は、教育課程特例校の指定2年目となり、海洋教育を「結ぬ海科」とし教育課程の中に位置づけて実施している。児童はこれまでに、地域の川や海などで体験を重ねて、本校のテーマである『**地域と共に、地域の中で学ぶ「結ぬ海科」**～故郷「古見の海」を愛し、持続させていくためにできることを考え実行する活動～』の地域の中で学ぶという点については、達成できつつある。そこで、本単元ではサブテーマにある「持続させていくためにできることを考え」ということをねらいに、一連の流れを通して自分達にできることは何かを考えさせたい。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

①【海に親しむ】古見に広がる豊かな海や川、山と、そこ由来の文化に親しむ経験から海への愛着を培い、海やその文化に進んで関わる児童を育成する。
②【海を知る】古見の「海」や「海洋文化」を体験する中で、海と人・社会の繋がりを理解するとともに、海やその文化への誇りを培いながら課題をもたせ、探求する技能を育成する。
③【海を活用する】海を活用した様々な経験から、海を愛する心を育み、海や海洋文化を守り、持続させる活動に、主体的に他者と協力しながら関わる児童を育成する。
④【海を守る】先人達はどの様に海を活用し、技能を継承させてきたのか。また、海と人々の暮らしや、海を通じた世界との結びつきを理解し、それらを持続的に活用できるよう考え行動し、学んだことを他者によりよく伝わるよう表現できる児童を育成する。

1-7. 単元の展開（全 時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1 2	○廃プラスチックについて考える ・私たちの生活から出る廃棄物・海岸に流れ着く漂着ごみについて学ぶ。 ・日本の廃プラスチックの輸出について知り、リサイクルすることの意義について考える。	・外部講師（西表財団より） ・授業の振り返りを記入し、本時で学んだことを確認する。（廃プラについて、興味関心をもち学ぶことができたか）
3 4	○ゴミ0運動 ・地域の環境を守るために自分達ができることを考え、地域のために頑張ることの大切さや協力することの大切さを実感させる。	・外部講師（西表島エコツアーリズムより） ・終わりの会で、児童の感想の中でふりかえる。 ・授業の振り返りを記入し、本時で学んだことを確認する。（積極的に取り組むことができたか）
5 6	○マイクロプラスチックについて考える ・西表島のマイクロプラスチックについて考える。 ・マイクロプラスチックになる過程をつくる。（劣化パネル作り）	・外部講師（西表財団より） ・プラスチックの漂着ごみがマイクロプラスチックになる過程を知り、劣化パネルを作る。 ・マイクロプラスチックについて、興味関心をもち取り組むことができたか
7 8	○プラスチックの一生について ・講師の先生とプラスチックの一生について考える。 ・プラスチックの一生マップを作成する。	・外部講師（カフェテリアカルチャーより） ・プラスチックが生産されてから、利用処分されるまでの過程を知り、一生マップを作成する。 ・プラスチックの一生マップについて、興味関心をもち取り組むことができたか
9 10 11	○自分にできることを考えよう。 ・これまで学習したことを振り返り、自分達にできることを考えよう。	・外部講師（カフェテリアカルチャーより） ・これまでに学習してきたことを振り返り、自分達でできることを考える。 ・今自分達ができることを考え、どのように伝えるといいか考えることができたか。

## 2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

### 2-1. 単元における位置づけ

単元  時間中の  時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

### 2-2. 本時の目標

#### 地域の海での清掃活動やプラスチックの漂着ゴミについて学んだことを通して、

（低学年）海にはたくさんのゴミがあることが分かり、漂着ゴミ問題に興味を持つ。

（中学年）漂着ゴミ清掃の安全な行い方を理解し、分別しながら海岸をきれいにしていく喜びを味わう。

（高学年）ゴミが世界中から流れ着いていくことが実感を持って分かり、ゴミを減らすために自分たちができる事を考える。

各学年の発達段階における目標を設定し、まとめの段階において全学年で、自分達のできることを考え、提言をまとめ町長へ提言書を渡し、お願いすることができる。

### 2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
1 これまでの学習の振り返り ・ゴミ 0 運動やその後の学習内容を振り返る	・ゴミ 0 運動を行った時に、どのようなゴミがあったかを写真や資料を見て振り返り、自分達の身近な自然を守る方法を考える。
2 西表島の海や川などの自然を守るために何が問題で何ができるかを考える。	・漂着ゴミを少なくするために、自分達でできることがないかを考えることができる。
3 自分達でできることを考える。また、自分達だけではなく、町として取り組んでももらえないかを考える。 4 町長への提言を考える	・これまでの学習で学んできたことを振り返り、自分達でできることはないかを考える。その際に、町にお願いしてやってもらうことなどもまとめて、提案できるようにしてはどうかなどのアドバイスをしあげる。 ・自分達でできることはないかを積極的に考えることができているか。
5 町長への提言お渡し会の準備 ・提言内容を考える  ・お渡し会のシナリオを考える  ・リハーサルを行う	・町長への提言内容を考える。 ・町長との調整は、職員で行う。 ・町長への提言書を作成する。 ・お渡し会のシナリオを考え、誰がどの部分を言うかなどを調整する。 ・リハーサルを行う。 ・自分達で考えた提言内容をどのように町長の伝えるかを考えることができる。

### 3. 今回の活動の自己評価

今回の活動を通して、まず「ポイ捨てを減らそう」という視点から「プラスチックの利用を減らす」という視点に変わったことが大きなポイントだったと感じる。また、海浜ゴミについて、海浜清掃、劣化パネル作成、プラスチックの一生、町長への提言と一連の流れで学習できたのは大きな成果であった。

児童からは「ゴミを拾うのも大切だけど、根本的にゴミになるものは買わないという工夫が必要だと思った」や「リサイクルすれば良いと思ったけど、そうじゃないことに気づいた」など、視点が変わった感想がでてきた。ただ、最も大切なことは自分事として、自分も行動することだと伝え続けていきたい。

### 3. 今後の課題

- ・専門的な内容が多いので、外部講師に頼っている現状がある。継続的な指導をするためには、教員の育成や人材の掘り起こしなどが必要になってくる。
- ・本校は令和5年度までは、教育過程特例校の指定を受けているので、海洋教育の時間を確保できているがその後の時間の確保や内容の精査などが必要になってくると考えられる。

### 4. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- ・課題にも挙げたが、人材や時間の確保をどうするかを検討する必要がある。

※実施した单元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS明朝、10.5ポイント / マージン：上下端20mm、左右端16mm

※ファイル名は「学習内容報告書\_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書\_海洋市立パイオニア小学校1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。